

# 令和8年度 丹波市施政方針



令和8年2月24日  
丹波市長 林 時彦



## 目次

1	はじめに	1
2	市政運営の基本方針	2
	(1) 「市民第一」のまちづくり	2
	(2) 実行していく市役所	3
	(3) 未来への投資	4
3	第3次丹波市総合計画に沿った主要施策	5
	(1) まちづくりの目標1【こども政策】楽しむ心がのびのびと育つまち	5
	① 「こどもまんなか」のまちづくり	5
	② 学校給食の無償化	6
	③ 部活動の地域展開とこどもの居場所づくり	6
	(2) まちづくりの目標2【活躍政策】多様な個性が創るまち	7
	① 市民一人ひとりが主役となり学びあうまちづくり	7
	② 持続可能な地域コミュニティの基盤形成	8
	③ スポーツや文化芸術活動に親しめるまちづくり	8
	④ 多様な主体との連携によるまちづくり	9
	(3) まちづくりの目標3【安全・安心政策】みんなでのちを守るまち	10
	① 災害に備えた物資の備蓄	10
	② 消防計画の策定と体制強化	10
	③ 犯罪抑止に向けた環境づくり	11
	(4) まちづくりの目標4【健康福祉政策】すこやかでしあわせに生きるまち	12
	① 安心して医療を受けられる環境づくり	12
	② 国保青垣診療所の機能充実	12
	③ 一人ひとりを大切にすまちづくり	13
	(5) まちづくりの目標5【産業政策】産業がつながり活力があるまち	13
	① 産業振興計画の策定	13
	② 旧丹波少年自然の家と道の駅あおがきの再整備	14
	③ 官民連携による働く若者の奨学金返済支援	15
	(6) まちづくりの目標6【くらしの基盤政策】便利で快適に暮らせるまち	15
	① 公共交通の充実とモビリティ・マネジメント	15
	② くらしを支える道路ネットワーク	17
	③ いのちの水を次世代につなぐ水道事業	18
	④ 地域の特性に応じた土地利用の推進	18
	(7) まちづくりの目標7【環境政策】自然と生きる環境にやさしいまち	19
	① ゼロカーボンシティの推進	19
	② 脱炭素社会をめざす事業所としての取組	20
	③ 第3次丹波市環境基本計画の策定	20
	(8) まちづくりの目標8【行財政政策】市民に開かれた行政を推進するまち	21
	① 行政サービスの質の向上	21
	② 人材の確保と育成	22
	③ 第4次行政改革プランの推進	22
	④ 市役所庁舎の検討	23
4	令和8年度当初予算の編成と組織改編	23
	(1) 令和8年度当初予算	23
	(2) 組織の改編	24
5	結びに	25

# 1 はじめに

冷たい空気のなかでも梅のつぼみがほころび始め、待ち遠しい春の息吹を少しずつ感じられるようになりました。議員の皆様のご健勝を心よりお喜び申しあげますとともに、日頃のご精励に深く敬意を表します。

令和8年第145回丹波市議会定例会の開会にあたり、令和8年度の市政運営に臨む私の方針を申し述べる機会を賜り、心より感謝を申しあげます。

さて、昨年を振り返りますと、大阪・関西万博は、国内外から多くの人々が来場し、連日大盛況となりました。また、7月に当時の国内観測史上最高気温となる摂氏41.2度を柏原で記録したことは、大きな話題となりました。さらには、丹波市のこどもたちがスポーツや文化活動で活躍するなか、特に、54年ぶりに丹波市出身のプロ野球選手が誕生したことで、たくさんの笑顔が輝いた一年でもありました。

一方で、「令和の米騒動」と呼ばれる一連の出来事は、生産量の減少そのものよりも、情報の伝達過程における混乱や流通供給網の不安定化が、私たちの暮らしに大きな影響を与えました。

国政におきましては、昨年10月、日本憲政史上初めて女性の総理大臣が誕生し、長年のガラスの天井を打ち破る出来事であ

りました。性別に関わりなく、その人の個性と能力を発揮できる時代になったと改めて共感された方も多かったと感じます。

そのようななか、丹波市では、特に人を大切にする「市民第一」に重きを置き、施策を展開してまいりました。こども政策では、「こどもまんなか応援サポーター宣言」を行うとともに、市内の事業者・団体を巻き込んだアクションにつなげていこうとしているところです。

公約の一つであった学校給食の無償化は、4月からの中学生と就学に援助が必要な小学生に続き、10月からはすべての小中学校や特別支援学校に通う児童生徒に拡大し実施しました。

また、大阪・関西万博を契機とした丹波市の魅力発信や、姉妹都市であるケント市・オーバン市との相互訪問の再開など、未来志向の取組も進めてまいりました。

## 2 市政運営の基本方針

### (1) 「市民第一」のまちづくり

私は、市長室に「誠実奉仕」と書いた掛け軸を飾り、訪ねていただいた皆様にご覧いただいております。「誠実奉仕」とは、純粋な心でまじめに努力し、感謝と思いやりを持って行動することです。私が昔から大切にしている言葉であり、これを市政にお

いて実践することこそが「市民第一」です。

日頃から、市民の皆様との接点となる市役所窓口の丁寧な姿勢や応対について、感謝の言葉をいただきます。一つひとつ誠実に市民と向き合う姿勢は、職員の「市民第一」の表れであり、大変うれしく思っております。こうしたことの積み重ねにより、市民サービスの更なる向上に努めてまいります。

## (2) 実行していく市役所

次に、「実行していく市役所」についてです。

「実行していく市役所」とは、職員誰もが安心して働ける職場環境や働きやすい職場風土のもと、職員一人ひとりが果敢にチャレンジしていく行動変容のことです。

昨年、姉妹都市であるケント市・オーバン市を訪問する際、半世紀にわたり続いてきたこの交流を次の世代につなぐための人材を庁内募集したところ、その思いに共感し、多くの若手職員が自ら手を挙げ参加しました。

また、第3期丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略の策定にあたって若手職員からアイデアを募集したところ、多くの提案が集まるなど、職員同士が思いを語り合い、みんなで将来を考える意識が芽生えてきております。このことが、丹波市の未来をつくっていくと考えております。職員一人ひとりが、市民の思いやいろいろな部署の意見を聞き、考え、そして行動していく。すべ

ての職員が実践し、そのような姿勢を安心して示せる職場風土づくりに引き続き取り組んでまいります。

### (3) 未来への投資

急速に変化し続ける現代社会において、「現状維持は後退を意味する」と言われます。持続可能なまちづくりを進めていくためには、前向きな変化をもたらす成長につなげていくことが不可欠であり、すぐに効果が望めないものであったとしても、先を読み積極果敢にチャレンジしていくことが求められております。そのようなチャレンジの連続が「未来への投資」そのものであり、その積み重ねが丹波市の明るい未来をつくっていくと考えております。

そこで、令和8年度は、身近なところで安心して医療を受けられる体制の持続的発展に向けて、取組を始めます。

国全体で医師不足が問題となるなか、丹波市においても地域医療に力を尽くされている開業医の高齢化や設備の老朽化、更には診療所の閉院といった問題に直面しており、先手を打って対応しなければ、身近なところで安心して医療を受けられる体制を守ることができなくなります。

このような状況を打開し改善するため、診療所の開設や事業の承継、医療機器の整備を支援してまいります。特に周辺地域での開設や承継を重点的に後押しし、身近なところで安心して医

療を受けられる体制の維持・発展に向けて、取組を始めます。

丹波市の未来のため、長期的な視野に立った柔軟な発想で、あらゆる分野において果敢にチャレンジしてまいります。

### 3 第3次丹波市総合計画に沿った主要施策

それでは、ここからは、人口減少社会に的確に対応するため、第3次丹波市総合計画の重要視点を踏まえつつ、私の方針に沿って取り組む令和8年度の主な事業を、8つのまちづくりの目標ごとに整理してご説明申し上げます。

#### (1) まちづくりの目標1【こども政策】楽しむ心がのびのびと育つまち

##### ① 「こどもまんなか」のまちづくり

「こどもまんなか」のまちづくりを進めるためには、こどもや若者が自分たちに関わることについて意見を述べ、そして参画できる機会をつくっていくことが必要だと考えております。

そのため、丹波市こども計画に基づき、庁内の会議体である子育て支援施策検討委員会において、こどもが生まれながらに持つ権利を身近に感じることができる環境の整備とこどもが意見を表明できる仕組みの構築に取り組むとともに、丹波市子ども・子育て会議を中心に関係機関や団体、事業者、地域と一

丸となって「こどもまんなか社会」の実現に向けた取組を進めてまいります。

また、子育ての学びや仲間づくりの場である柏原子育て学習センターを改修するとともに、市民プラザ内にある氷上子育て学習センターを移転整備し、より快適、より便利に利用できる充実した施設をめざしてまいります。

## ② 学校給食の無償化

学校給食の無償化につきましては、令和7年度から一部実施してまいりましたが、国におきましては子育て世帯の経済的負担を軽減するため、令和8年度から全国の公立小学校の学校給食費の抜本的な負担軽減を実施することとされております。

そのため、こどもたちがふるさと丹波市の給食を自慢し誇りに思えるよう学校給食の質の維持と向上に努めつつ、引き続き中学生全員の学校給食無償化に取り組むとともに、国の事業を活用しながら小学生から中学生までのすべてのこどもたちの学校給食を無償化し、丹波市の宝であるこどもたちの健やかな成長を力強く応援してまいります。

## ③ 部活動の地域展開とこどもの居場所づくり

中学校の部活動は、体力や技能の向上のみならず、生徒同士

や教員などとの人間関係の構築や自己肯定感と責任感、連帯感の養成など、学校教育の一環として取り組んでまいりました。

生徒たちに、より多様な選択肢と成長の機会を確保するため、これまでからスポーツや文化芸術活動をしておられる方々の助けを得ながら、安全・安心の確保や教育的観点を保ちつつ、地域のこどもを地域で育てる「地域クラブ型」の活動に段階的に移行してまいります。

## （２）まちづくりの目標２【活躍政策】多様な個性が創るまち

### ① 市民一人ひとりが主役となり学びあうまちづくり

第２期丹波市生涯学習基本計画では、一人ひとりが生涯を通じて行うあらゆる学習や学びにより、「やりたいことが、このまちにある こどもも大人もワクワクしながら学びあうまち」の実現をめざしております。

そのため、市民プラザの運営が新たな事業者へ移行することに併せて、市民の主体的な活動を支援する丹波市市民活動支援センターにおける生涯学習の拠点的機能を強化します。学びを通じて多様な個人や団体を結びつけるなど、市民の生涯学習を支援するとともに、市民一人ひとりの学びの成果を地域づくりの実践に活かせるまちづくりを推進してまいります。

## ② 持続可能な地域コミュニティの基盤形成

住民主体の持続可能な地域づくりや地域が抱える課題の解決に向けては、地域づくり交付金に特別分を設け、それぞれの地域に応じた支援を展開してまいりました。

これを更に深化・充実させるため、複数の自治協議会が一体となって、より広域的な課題の解決に取り組むときに支援を行う枠組みを新設するとともに、これまでの特別分を階層に分け、地域の実情や地域が描く未来図に応じて活用できる多層的な支援の仕組みを構築します。

また、青垣地域におきましては、多様な主体が自治協議会と一体となった取組がすでに始まっており、新たに地域おこし協力隊を配置することで、活動の活性化を図ってまいります。

## ③ スポーツや文化芸術活動に親しめるまちづくり

漢方の里総合運動公園は、市民の運動や健康増進、子育て支援の充実を目的に、旧薬草薬樹公園と旧和田中学校を一体的に活用した体育館やテニスコート、照明設備付きの多目的グラウンド、全天候型遊戯施設を備えた総合運動公園として整備を進めております。テニスコートなど一部施設の供用をすでに開始するなか、令和8年度は、施設全体の供用を開始し、グラウンドオープンを迎えます。

さらに、市島支所と体育館の機能を備えた複合施設として整備を進めている愛育ピアいちじまは、令和8年5月からの供用開始をめざし、準備を進めております。施設のオープニングイベントでは、記念式典に加え、兵庫県内のプロバレーボールチームを招致し、丹波市のこどもたちが参加できるバレーボール教室を開催します。

両施設が、多くの皆様にご利用いただき、たくさんの笑顔を生むまちの拠点になるとともに、施設を利用するこどもたちの活躍を応援する取組につなげてまいります。

#### ④ 多様な主体との連携によるまちづくり

人口減少下において持続可能な行政運営を行うためには、多様な主体との連携が不可欠です。域学連携の分野では、包括連携協定を結ぶ武庫川女子大学などの学生たちが、地域に深く関わりながら活動しております。

例えば、若者や女性をキーワードとした調査研究、認定こども園や小学校での教育活動、全国高等学校女子硬式野球選手権大会における女性アスリートへの支援に加え、農業の活性化、古文書調査など、活動の輪が年々広がりを見せております。

また、自治体や企業などとの連携におきましても、防災や観光、教育など、それぞれの強みを発揮し、地域の魅力を高め合うまち

づくりに向けた検討を進めてまいります。

### (3) まちづくりの目標3【安全・安心政策】みんなでのちを守るまち

#### ① 災害に備えた物資の備蓄

令和6年能登半島地震の発生から2年が経過しましたが、被災地では今もなお、復興に向けた必死の努力が続けられています。

近い将来、必ず起こるとされている南海トラフ地震など、いつ起こるか分からない災害に備えるため、自助・共助による備蓄を基本としながら、丹波市防災資機材備蓄計画に基づき、物資を備蓄してまいります。さらに、避難所においても、避難者の健康やプライバシーが守られ、安心して過ごせる環境を整備してまいります。

#### ② 消防計画の策定と体制強化

中山間地域に位置し、広い市域を有する丹波市にとりましては、市民の安全・安心に直接つながる救急体制の構築と均衡化、常備消防と非常備消防の効果的な一体運用に絶えず取り組んでいくことが重要です。

そのため、青垣地域の消防救急体制の充実や常備消防と非常

備消防の役割分担、持続可能な消防組織のあり方などについて、救急や災害への対処と防災活動に万全を期すことに主眼を置き、地域の実情や社会情勢の変化に即した消防計画の策定を進めてまいります。

### ③ 犯罪抑止に向けた環境づくり

市民の皆様には、日頃から「おかえり」や「ただいま」の声かけによる見守り活動や防犯活動に意欲的に取り組んでいただいております。心より感謝を申し上げます。

そして、市内では当たり前の声かけの文化が市外から来られた方には、驚きと感動を覚えるとよくお聞きし、大変うれしく思っております。

全国各地で発生している犯罪の報道に接するたび、このような地域における地道な防犯対策の重要性を痛感しているところです。特に、防犯カメラは設置そのものに犯罪を未然に防ぐ抑止効果があり、その記録映像が解決のきっかけとなる刑法犯罪事案が全国で増えております。

そのため、自治会や自治協議会などが防犯カメラを設置する際の補助制度を毎年度利用できるように拡充し、地域における防犯対策と防犯意識の向上を図ることにより、犯罪のない安全・安心なまちづくりを推進してまいります。

#### (4) まちづくりの目標4【健康福祉政策】すこやかでしあわせに生きるまち

##### ① 安心して医療を受けられる環境づくり

医療とは、単なる「病気を治すこと」だけに留まらず私たちの暮らしを広く支えるものです。

子どもたちがこのような医療を分け隔てなく受けられるようにするため、0歳から高校3年生までの医療費助成事業の所得制限の撤廃に加え、母子家庭等医療費給付事業の所得要件を緩和している特例措置を恒久的に実施したいと考えております。

子育て世帯の負担軽減に加えて、子どもたちが安心して医療を受けられ、健やかな成長を支える環境を整えてまいります。

##### ② 国保青垣診療所の機能充実

国保青垣診療所は、常勤医師2名体制の維持や老朽化した施設の改修、青垣訪問看護ステーションの診療所内への移転などにより、診療機能や介護サービスの充実を図っております。

これからも、安心して受診できる診療体制を提供し続けるため、一般X線撮影装置などの更新や新たな医療機器の導入を計画的に進めてまいります。さらに、国保青垣診療所やミルネ診療所、休日応急診療所で医療通訳サービスを導入し、言語が違うことでコミュニケーションに不安を感じている外国人市民の皆様も安心して受診することができる質の高い医療環境を整備して

まいります。

### ③ 一人ひとりを大切にするまちづくり

1期目4年をかけて検討を重ね、今年度から取り組んでいる重症心身障がい者等の生活支援体制整備は、新たに市内に2つのサービス事業所を確保することができ、更に既存の事業所2カ所でも対象者の受入れを開始いただくなど、日中活動の場の拡大が少しずつ図れております。

今月には、様々な情報やサービスを簡単に探せて受け取れる障がい者支援アプリの導入に加え、介護保険サービスなどの地域資源情報把握システムの運用を今年度内に開始する予定です。これらを活用し、福祉サービスと市民ニーズをつなぐ取組を増やすとともに、福祉人材の確保や高齢者の移動支援についても引き続き検討を重ねてまいります。

## (5) まちづくりの目標5【産業政策】産業がつながり活力があるまち

### ① 産業振興計画の策定

丹波市の産業活性化は、これまで観光と商工業の分野を統合した「丹波市観光・商工業振興ユニティプラン」、農業分野の「丹波市農業・農村振興基本計画」に基づいて取組を進めてまいりました。こうしたなか、「丹（まごころ）のやさい」のブランド化

や「丹（まごころ）のあんバターサンド」の認知度向上など、各分野の枠を超えた連携による具体的な成果も芽吹き始めております。

各産業分野が互いの強みを掛け合わせ、相乗効果を生み出す産業構造を構築することで、丹波市経済の更なる持続的発展をめざすため、これらを一つにまとめた丹波市産業振興計画を策定し、産業振興施策を総合的かつ体系的に推進してまいります。

## ② 旧丹波少年自然の家と道の駅あおがきの再整備

旧丹波少年自然の家は、こどもたちの歓声が響く教育施設としての役割を継承しつつ、民間の活力を取り入れることで、「懐かしさ」と「新しさ」を融合させた、教育・レジャー・交流の多機能な拠点施設として、地域活性化の起爆剤となるよう再整備を進めてまいります。

令和8年度から本格的な改修に着手し、こどもから大人まであらゆる世代の方が何度も訪れたくなる滞在型施設「CAMP u s 丹波」として生まれ変わらせ、その魅力や期待感を事前プロモーションにより、広く発信してまいります。

また、丹波市の北の玄関口である道の駅あおがきは、令和9年夏のオープンをめざして改修に着手します。レストラン棟や観光情報提供スペース、授乳室やキッズスペースなどの新設、施設をつなぐ渡り廊下の設置などにより、施設機能の強化と来訪者

の利便性向上を図ります。

これら2つの施設が連携して、地域活性化の原動力となり、観光・交流の波及効果が丹波市全体に広がることを期待しております。

### ③ 官民連携による働く若者の奨学金返済支援

丹波市で育ったこどもたちの多くは、他の地域と同様に高校を卒業し、進学のために地元を離れていきます。そこでの学びや経験を通じてたくましく成長した若者たちが、就職や転職を機に再び丹波市へと戻ってくる。3月に策定する第3期丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略では、このような好循環の構築をめざしております。

昨今の労働力不足のなか、人材確保に不安を抱える市内の事業所もまた、同じ思いを強くされております。

そのため、事業所の皆様とともに若者の奨学金返済を応援することで、実質的な手取りを増やし、若者が安心して丹波市に根を下ろせる環境を整えてまいります。

## （6）まちづくりの目標6【くらしの基盤政策】便利で快適に暮らせるまち

### ① 公共交通の充実とモビリティ・マネジメント

公共交通は、人口減少や運転手の担い手不足への対応が問わ

れており、維持に向けた取組には、事業者や利用者、地域、行政など多様な主体が役割分担し、連携・協働することが求められております。

そのため、丹波市におきましても、一人ひとりが多様な交通手段をかしこく組み合わせて利用するモビリティ・マネジメントを推進してまいりました。

今後は、それぞれの交通機関の特徴や魅力を磨き、より親しまれる公共交通ネットワークにしていくため、日々の通院や買い物など市民生活を支えるデマンド型乗合タクシーの車両の計画的な更新に合わせ、車体に一目でそれと分かるラッピングを施します。

路線バスにつきましては、実証実験を行っていた野瀬線と市島地域の路線が4月から本格運行に移行し、市内全地域での路線バスの運行が実現します。

鉄道につきましては、JR加古川線沿線の自治協議会で組織するJR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会が、利用促進に向けた地域の主体的な活動を進められております。他方で、同じ交通インフラの道路に目を向けますと、国道429号榎峠バイパスなどは、長年にわたる地元の情熱が実を結び実現に至っております。JR加古川線につきましても同様に、兵庫県や西脇市、そして地域の皆様と手を取り合い、維持・存続に向けた利用促進と粘り強い要望活動に邁進してまいります。

## ② くらしを支える道路ネットワーク

市民の安全で快適なくらしを支える道路ネットワークは、その機能を充実させるため、道路の機能強化や減災対策、老朽化に対する予防保全対策に取り組んでおります。

市道におきましては、国土強靱化丹波市地域計画や丹波市道路整備計画に基づき、市道特10号線や特19号線など8路線の道路改良を進め、こどもたちの通学路の安全確保や生活道路の維持・充実を図ってまいります。また、道路の舗装と同時に整備した区画線の多くが消失しているため、ドライバーからの視認性や自動車の運転支援システムの動作環境の保全など、交通安全の観点から5年計画により区画線の引き直しを実施してまいります。

広域道路網の整備につきましては、今年の春に開通する予定で整備が進む国道175号東播丹波連絡道路西脇北バイパス以北の早期事業化を積極的に要望してまいります。

橋梁長寿命化につきましては、機能に支障が生じる恐れがあるものから計画的に補修に着手するため、丹波市橋梁長寿命化修繕計画に基づき定期点検を実施し、橋梁の安全性の維持と長寿命化を図ってまいります。

河川整備につきましては、減災の視点に立ち、朝阪谷川などの4河川の改良を進めるほか、妙法寺谷川などの3河川の土砂撤去工事を実施するとともに、丹波市雨水管理総合計画に基づく

重点対策地区の内水対策を進め、浸水被害の軽減や解消を図ってまいります。

### ③ いのちの水を次世代につなぐ水道事業

丹波市水道事業は、平成18年3月に「丹波市水道ビジョン」を策定し、水道施設の集約や広域的な水運用、運営体制の一体化に取り組みながら、市民生活を支える社会インフラとして役割を果たしてきました。

その一方、人口減少などによる水道料金の減収に加え、施設や水道管の老朽化に伴う維持管理費の増大、人件費や資材価格の高騰など、持続可能な水道事業に向けて様々な課題に直面しており、蛇口を回せば当たり前に水が出る水道の維持が困難になりつつあります。

このような複合的な課題に着実に対応しつつ、持続可能な事業運営により、いのちの水を次の世代にも届けるため、「たんば水ビジョン2055」を策定するなかで経営を見直し、効率的かつ効果的に事業を展開してまいります。

### ④ 地域の特性に応じた土地利用の推進

人口減少や高齢化に対応した持続可能なまちづくりが様々な分野で進められております。これは丹波市の土地利用や住環境

の形成についても例外ではなく、誰もが安心して暮らせる生活環境を実現していくことが求められております。

そのため、丹波市都市計画マスタープランで示した将来のまちの姿や都市構造を更に具体化し、全市的な都市機能の役割分担を明らかにするとともに、住宅や医療・福祉施設、商業施設など暮らしに必要なサービス施設の誘導を計画的に進める立地適正化計画の策定に向けて、庁内での検討を始めてまいります。

## (7) まちづくりの目標7【環境政策】自然と生きる環境にやさしいまち

### ① ゼロカーボンシティの推進

令和4年12月にゼロカーボンシティ宣言を表明し、生ごみ処理機キエーロによるごみの減量など、市民の皆様にご協力いただきながら、丹波市ゼロカーボンアクションの取組を進めてまいりました。今年度からは、取組を更に一歩前進させるため、太陽光発電設備や蓄電池設備などの導入を支援するスマートエネルギー導入促進補助事業を開始しました。

引き続き、ゼロカーボンシティの実現に向けた取組を更に加速し、2050年までの二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすため、住宅に太陽光発電設備と蓄電池設備を同時に導入する場合の補助金を増額し、エネルギーをつくって貯める仕組みの普及を促進してまいります。

## ② 脱炭素社会をめざす事業所としての取組

ゼロカーボンシティの実現に向けたアクションの輪を広げていくためには、市役所が自ら率先して二酸化炭素排出量削減に取り組むことが不可欠です。

市役所におきましては、3年計画で取り組む学校公用車セーフティたんば号に電気自動車を採用したり、市役所庁舎や小中学校などにおいて再生可能エネルギーを導入するなど、各分野において取組を進めてまいりました。脱炭素社会をめざす取組は、分野を限定せず広く複層的に推進していくことが重要であるため、新たに公共施設照明のLED化に着手します。

このことは、令和9年末までの蛍光灯製造・輸入禁止に向けた取組への対応でもあり、78の公共施設を3年間で集中的にLED化することで、省エネ効果とともに経済的な効果も期待でき、市内企業のモデルとなれるよう取り組んでまいります。

## ③ 第3次丹波市環境基本計画の策定

私たちのくらしは、丹波市の自然やそこで暮らす生き物など、固有の風土や環境によって形づくられており、子や孫たちが暮らす未来に引き継いでいかなければならないものです。

丹波市の環境保全と創造に向けては、平成19年3月の第1次丹波市環境基本計画の策定に始まり、続く第2次計画では「源

流」に焦点を当て、里地里山の保全や循環型社会の実現に取り組んでまいりました。また、持続可能な開発目標（SDGs）との関連から、地球温暖化の防止に向けた「ゼロカーボンシティ宣言」を表明するなど、環境の保全や創造に関する施策を進めてまいりました。

このような観点から第3次計画では、これまでの方向性に加えて生物の多様性にも焦点を当てるなど、今後10年間の計画を策定してまいります。

## （8）まちづくりの目標8【行財政政策】市民に開かれた行政を推進するまち

### ① 行政サービスの質の向上

行政サービスは、デジタル化による利便性の向上と市民一人ひとりに寄り添うサービスの両立が求められる一方、持続可能な行政運営を念頭に置きつつ、これまでにない新たな視点から取り組むことが重要です。

具体的には、入札参加資格者名簿申請の電子化などを進め、手続きの効率化を図ります。加えて、開庁時間の短縮を始めとする働き方改革を推進し、生み出された時間を職員でないといけない業務に充てることで、誰一人取り残さない配慮など、質の高い市民サービスを実現してまいります。

## ② 人材の確保と育成

総務省地方制度調査会の今年1月の報告によると、一部の自治体で採用試験の応募者ゼロが現実のものとなり、行政サービスの維持そのものが危ぶまれております。

丹波市におきましても、慢性化する人手不足や民間企業の労働環境の改善などに伴い、職員の採用環境が年々厳しくなっており、職員が安心して能力を発揮できる働きがいのある職場づくりが急務です。

このような状況に対応するため、職員が安心して働ける職場づくりの一つとして、庁舎窓口に防犯カメラを設置し、カスタマーハラスメントの抑止を図ってまいります。

また、3月に策定する第5次丹波市定員適正化計画に基づき、職員の年齢構成のバランス改善を図るため、計画的な人材確保に努めるとともに、3月に改訂する丹波市人材育成基本方針に基づき、デジタル化を担う人材の確保・育成など、職員一人ひとりのスキルアップを応援する制度を充実させ、市民サービスの向上と行政運営の効率化の両立につなげてまいります。

## ③ 第4次行政改革プランの推進

令和7年3月に策定した第4次丹波市行政改革プランでは、これまでのコストカット重視の考え方を転換し、メリハリのあ

るヒト・モノ・予算の投下によって選択と集中を実践し、市民満足度の高い行政サービスの実現をめざしております。

そのなかでも、窓口改革プロジェクトは、市民との重要な接点である行政手続きを、デジタルを活用しながら市民側と市役所側の両方にとって効率的になるよう見直すもので、これまでのモデル的な取組から、実践と拡充につなげてまいります。

#### ④ 市役所庁舎の検討

市役所庁舎の整備につきましては、あらゆる可能性を検討することとし、今年度に本庁舎と春日庁舎の躯体について劣化状況調査を行いました。

引き続き、未来の丹波市にとってより良い方向となるようファシリティマネジメントの視点に留意しつつ、庁舎整備の必要性を検討し、できるだけ早期に道筋を示していきたいと考えております。

## 4 令和8年度当初予算の編成と組織改編

### (1) 令和8年度当初予算

令和8年度当初予算案は、近年の物価高騰や人件費の上昇に対応することで市民のくらしに寄り添いながら、選択と集中による丹波市の「未来への投資」として、メリハリのある予算を編

成しました。

特に、令和8年度は、漢方の里総合運動公園のグランドオープンを始め、道の駅あおがきや旧丹波少年自然の家の再整備工事など、過疎対策事業債を活用した事業が具現化します。今後も有利な財源を最大限に活用し、「未来への投資」を力強く確実に進めてまいります。

また、令和7年度の補正予算として議決いただいた国の重点支援地方交付金を活用した物価高騰対策は、最優先で取り組むべき課題であり、生活者支援のたんば共通商品券や子育て応援手当を可能な限り速やかに皆様のお手元に届けてまいります。

## (2) 組織の改編

行政運営は、予算とその執行を担う組織力の両輪がそろって初めて前に進むものであり、両方のバランスが重要と考えております。加えて、今日の急速な社会環境の変化に迅速に対応するためには、柔軟な組織づくりが必要です。

令和8年度に向けては、すでに議決いただいておりますとおり、入札検査部の所掌する事務を財務部へ移管する部の改編を行うとともに、商工振興課と観光課を統合して業務の連携強化を図ります。併せて、令和9年4月を目途に市民活動課を市民プラザ内に移転する準備を進めるなど、組織と業務の最適化を図ります。

## 5 結びに

私は、黒井城跡を抱く猪ノ口山への早朝の山登りを日課としており、登った回数は5,600回以上、日々の風景をSNSで配信しております。春夏秋冬、それぞれに趣を変える自然と山頂の360度の展望、そして丹波市の朝を包む一面の雲海は、何度見ても感動を覚えます。

私が登り始めた当時は人もまばらでしたが、今年の元旦は初日の出を仰ぐ大変多くの人で賑い、そのほとんどは市内外から足を運んだ若者たちでした。

朝早くから山頂が大変混雑する光景を目のあたりにし、「人は場所がもつ価値や魅力に惹かれ、そこに集う。そして何事も『千里の道も一歩から』だということ」を改めて実感しました。丹波市発足から20年余りを経た今、私たちは「丹波市らしさ」とは何かを今一度見つめ直し、磨き上げねばなりません。誰もがこのまちが大好きだと語り合える、誇りあるまちづくりが必要です。

また、外に目を転じますと、多様な関わりのなかで遠方に住みながらも行事やイベントに携わり地域の担い手として活躍されている方、あるいは遠く離れた所からでも丹波市に思いを馳せ、様々な形で応援してくださる方など、私たちのくらしは実に多様なつながりに支えられております。

市民の皆様はもとより、丹波市とつながりや結びつきのあるすべての人にとって丹波市が心安らぐ居心地の良い「居場所」と

なり、人が集い、人がつながる丹波市を実現すべく、職員とともに市役所一丸となって市政運営に邁進してまいりたい所存です。

丹波市のしあわせが輝く未来に向け、議員の皆様を始め市民の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申しあげまして、令和8年度の施政方針とさせていただきます。